

## 5月のアルミマーケットレポート及び6月の見通し (4)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎



## 【輸出】

アルミ新地金が前年比-763%の63t。二次合金が+2422%の3036t。スクラップが-26%の8072t。アルミ缶が+27.6%の5544t。

## 【輸入】

アルミ新地金が前年比-17%の12万4258t。二次合金が+141%の10万810t。スクラップが+46%の613t。合金スクラップが+57.1%の3672t。

## 【見通し】

自動車は生産が+163%。国内販売台数が前年比+61%。生産が7カ月連続プラス、販売も8カ月連続プラス。生産、販売共に増加しており今後も期待。

住宅着工の動向については、前年同月比で+19%と前月の微増から小幅改善しており、下げ止まり傾向かどうか今後の動向に注目。

伸銅品は9カ月連続プラスの前年比+69%。需要の多い銅条が、12カ月連続プラス。黄銅棒も12カ月連続プラス、輸出6カ月連続プラス。今後も期待。

電線は、前年比+03%の5万6200t。輸出が+188%と大幅回復。需要の多い自動車、建設電版がそれぞれ+13%、-33%。全体として回復傾向。

銅輸出は、前半の円安傾向から地金は増加。スクラップはメーカーの買い控え傾向から増加。銅輸入は円安傾向から減少。

## 【価格・為替予想】

今月は米国のパリ協定離脱、ロシアゲート疑惑と中国経済、環境問題の動向に左右される。

パリ協定離脱に関しては、正式決定が決まれば石油、シェールガス増産からの原油などの下落などを受けて商品全体が下落する可能性あり。

ロシアゲート疑惑に関しては、即解決とはならないにしても議会で揉めるようであれば、好調なNY株にも悪影響が懸念される。

前月に続き中国経済、環境問題に関しては、鉄、銅、アルミなのでこれまでにない環境規制が敷かれ生産活動に弊害がでてくる。この厳しい取り締まりが今後も続くのかどうか注目。

それらを踏まえた6月のアルミ価格は、パリ協定離脱が撤回、ロシアゲート疑惑が冤罪の可能性で、中国の環境規制が多少緩み、企業活動がこれまでとはいかないまでも動き出した場合、5月高値の2000ドルを予測。いずれかの場合は1950ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合5月一段安値の1900ドル。

為替は、ここ最近のISによる国際テロ及びロシアゲート疑惑の動向次第。

それらを踏まえ予測は、ISによる国際テロが治まらず、ロシアゲート疑惑で米議会が混乱した場合、高値は5月後半高値一段高の109円台(TTM)を予測。いずれも行われなかった場合、安値の114円台を予測。

スクラップ購買価格に関しては-5~0円程度と予測している。